

津麦ニュース 平成29年産

作柄報告版

平成29年10月3日発行

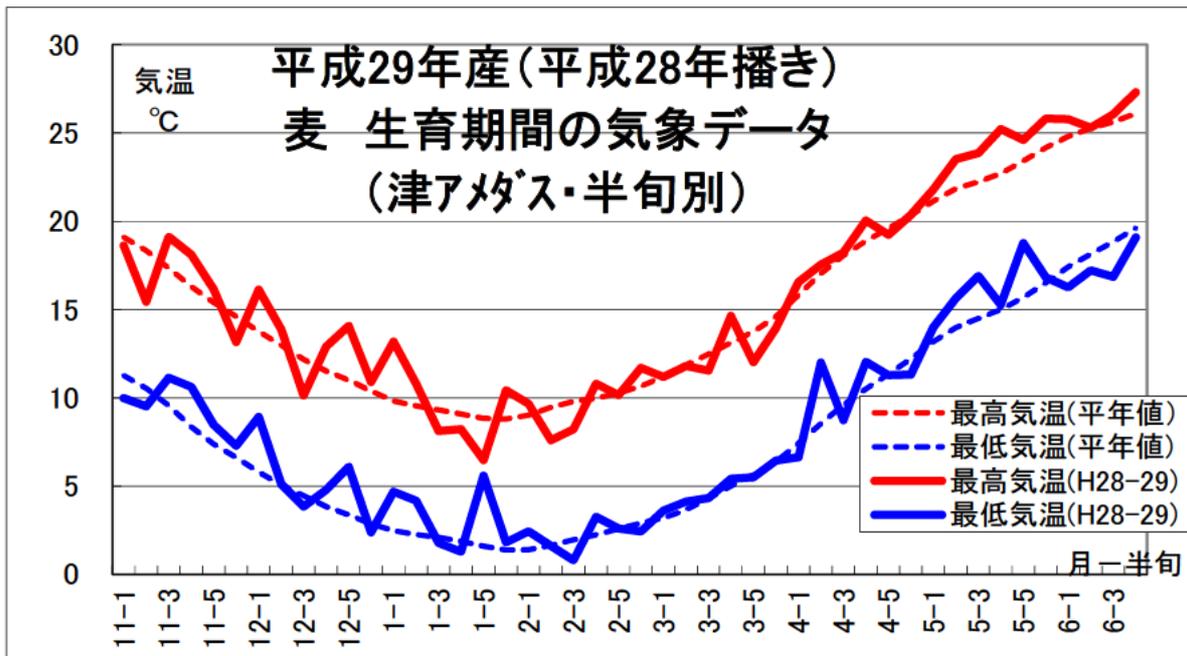
津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

<気象経過>

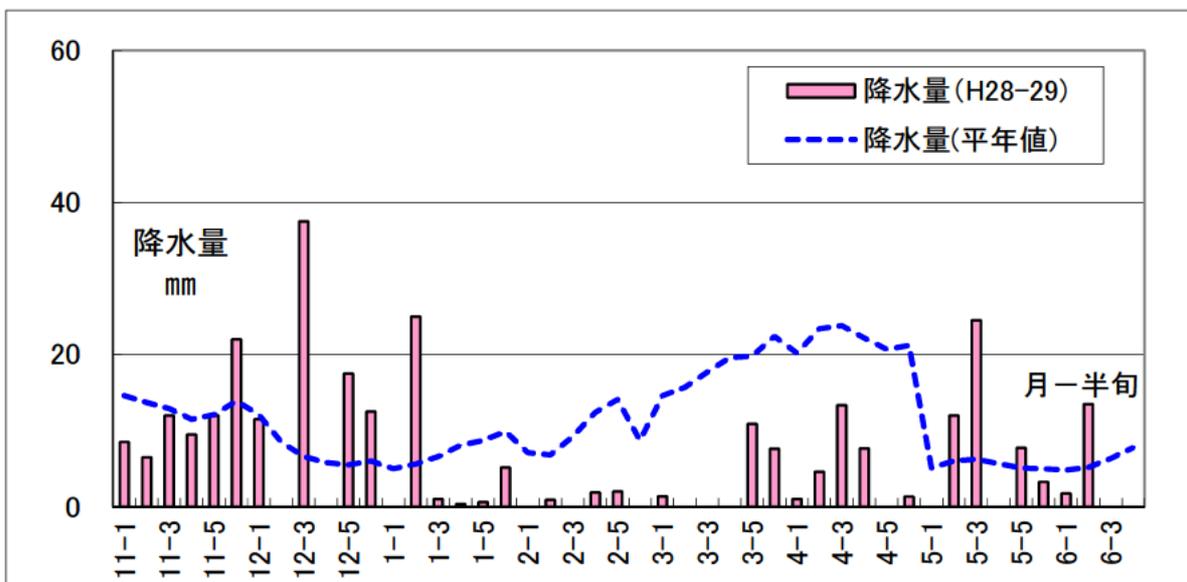
○気温

11月～1月中旬はやや高くし、1月第3半旬～2月第3半旬に低温になった時期もありましたが、出穂期まではほぼ平年並みに推移しました。出穂期以降、登熟期間は平年より高く推移しました。



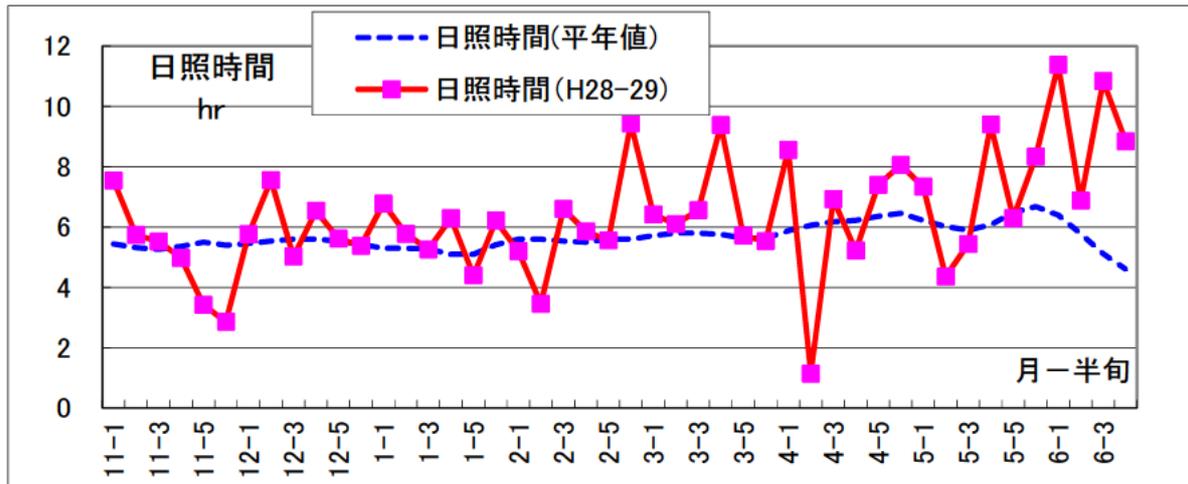
○降水量

12月～1月上旬は、大雨となった日があり降水量は多くなりましたが、その後4月にかけて降水量は平年に比べかなり少なく経過しました。5月以降は一時的に多い半旬もありましたが、登熟期間を通じては平年に比べ少なく推移しました。



○日照時間

11月下旬は日照時間が少なくなりましたが、その後2月にかけては平年並みの日照時間で推移しました。4月第2半旬に一時的にかなり少なくなりましたが、3月以降日照時間は多く、特に登熟期間はかなり多く経過しました。



<生育の概況>

播種作業は定期的な降雨の影響により遅れぎみとなりましたが、管内の播種作業は12月中には概ね完了しました。出芽への影響はほとんどなく、順調に出芽したところが多くなりました。一時的に気温が低下した時期もありましたが、気温は平年並み～やや高く経過し、生育はやや早く推移しました。出穂期はほぼ平年並み、成熟期はやや早くなりました。稈長、穂長はやや長く、穂数は多くなりました。登熟期間は高温多照に恵まれ稔実歩合も高まり、各品種とも収量は平年並み以上となりましたが、蛋白含量はやや低い結果となりました。

品種名	H29年産単収 kg/10a(対前年%)	1等麦比率%	蛋白含量%(前年%)
あやひかり	307(123)	100	8.7(9.2)
ニシノカオリ	259(134)	76	—
さとのそら	214(105)	85	9.2(9.5)

※蛋白含量は製粉組合による分析値

○平成29年産(平成28年播)小麦生育基準ほの成熟期調査

地区	品種	播種日	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	出穂期	成熟期
芸濃町 椋本	さとのそら	11月28日	87.1	9.4	557	4月14日	6月5日
安濃町 田端上野	ニシノカオリ	11月7日	86.5	7.3	374	4月10日	5月30日
一志町 井生	あやひかり	11月16日	73.4	9.3	343	4月13日	5月28日
白山町 川口		11月10日	89.9	10.1	406	4月12日	5月29日

○平成29年産小麦生育基準ほの収量調査結果

地区	品種	播種日	粗麦重 (kg/10a)	千粒重	タンパク含有量 (%)
芸濃町 椋本	さとのそら	11月28日	632	37.2	8.8
安濃町 田端上野	ニシノカオリ	11月7日	401	38.7	9.6
一志町 井生	あやひかり	11月16日	364	36	8.1
白山町 川口		11月10日	542	40	7.5

※わら重、粗麦重、千粒重は水分12.5%、タンパク含有量は13.5%に換算した値

<H30 産以降の対策>

1 土づくり、ほ場準備

麦作ほ場は可能な限り団地化、連担化し、稲収穫後、できるだけ早期にほ場内の明渠、弾丸暗渠の設置、浅耕を行いましょ。

排水対策……排水溝の適切な設置、弾丸暗渠の設置等

地力向上……堆肥や土壌改良資材の施用(小麦の生育好適pH6.0～6.5)

2 追肥

小麦の収量確保には、穂数の確保と粒の充実が必要で、分けつ期に十分な栄養を与えることが重要です。肥切れは収量低下の要因となる一方で、過剰になると倒伏等の原因となります。つなぎ肥を含め、追肥は生育状況を注視して行いましょ。

あやひかり・さとのそらは、タンパク含有量が高くなりすぎることを避けるため、出穂期以降の追肥は禁止

ニシノカオリは、タンパク含有量を確保するため開花期に追肥(N 3～4kg 程度)

3 麦踏み

3葉期～茎立ち期までのほ場がよく乾いているときに実施しましょ。2～3回実施すると効果的です。

4 防除

雑草防除:イタリアンライグラス(ネズミムギ)やカラスムギ等の雑草の発生が問題となっています。

多発ほ場では、適切な除草剤の使用と耕種的な防除を組み合わせで行いましょ。

赤かび病:開花期からの高温・多湿条件下で発生しやすくなります。

開花期の適期防除に努めましょ。

5 収穫

収穫作業を開始する目安は、穀粒水分が28%以下となってからです。しかし、成熟期後、雨にあたると穂発芽が発生したり、外観も悪化して大きく品質を低下させます。小麦の水分低下は、乾燥した好天時には5%以上急激に低下することがあります。一方、曇天日にはほとんど減少しません。

収穫の準備は早めに行い、天気予報や生育状況を注視して、適期収穫に努めましょ。